

令和8年度 もみじの森小学校「学ぶ力」育成プログラム

学校番号：24519

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

「学ぶ力」	
これまでの 成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ◇札幌市の共通指標アンケートから、「人の意見（考え）を聞いて、それを参考にしてもう一度考えてみることもある」と感じている児童が多いことから、協働的な学びに価値を感じ、学び合う意識が高い傾向が見られる。 ◇全国学力・学習状況調査の児童質問の結果から「課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいる」と感じている児童が多い。 ◇児童の実態交流会から、前向きに学習に取り組む素直さが育まれている児童が多い傾向が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇札幌市の共通指標アンケートから、「新しく学んだことを、他の学習や生活の場面で使おうとしている」児童の割合が少ないという実態がある。 ◇全国学力・学習状況調査の児童質問の結果から、学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることに課題があることが明らかとなった。 ◇児童の実態交流会から、自分の考えをもつことに課題がある児童が多く、それが表現力の乏しさに繋がっていることがわかった。
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く相互承認の感度〉の現状と課題	
<p>◇札幌市の共通指標アンケートの相互承認に関する項目「人の役に立てて嬉しいと感じることがある」「人の役に立つ人間になりたい」では、全校の90%以上の児童が肯定的な回答をしている。年度を通して縦割り活動による異学年交流を実施していることや、運動会や学習発表会等の行事の際に互いを認め合い、相互評価をする場があることが、自己肯定感の高まりに繋がっていると考えられる。一方で、他者に自分の意見や考えを伝えたり、表現したりする力が課題となっていることから、今後も自分に自信をもつことができるような場の設定や価値付けをしていくことが重要である。</p>	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

協働的に学ぶ子

	AAR サイクルの視点で捉え直した 課題探究的な学習の推進	さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく 自主的な活動の充実
取組	<p>◇自分の考えをもち、表現できる子の育成の実現 ～2ブロックの研究を土台に研究を推進する～</p> <p>「授業力向上ブロック」 「協働的に学ぶ子」の育成を目指す</p> <p>「特別支援対応ブロック」 SEL（社会性と情動の学習）を通して、 すべての児童にとって安心感のある学校風土をつくる</p> <p>イントロダクション → 個別探究 → リフレクション → 協働探究</p>	<p>◇よりよい学校にするための委員会活動の充実 →学校の様々な課題を議題にした話し合い →クラスルームを活用した振り返りと相互参照による高め合い</p> <p>◇たてわりでの交流活動の充実 →大人数と少人数（グループごと）での活動内容の決定 →高学年を中心とした子ども主体の企画・運営</p>

〈「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICT の活用について〉

- スライドを使った簡単発表…自分やグループでの取り組みの成果をシンプルなスライドにまとめ、学級で共有して発表するなど。
- 共同編集でグループワーク…キャンバやグーグルスライドを活用し、みんなで同時に意見を書き込み、話し合いの活性化につなげるなど。

〈本プログラムの実行に向けて〉

